

今月のトピックス

- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告数が例年に比べて多い状態が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症や咽頭結膜熱などに注意が必要です。

全数把握の対象

- 1 コレラ:O1 エルトール小川型の報告が 1 件ありました。マレーシア(コタキナバル)での経口感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:3 件(O157 H7VT2 2 件、O157 VT1VT2 1 件)の報告がありました。O157 H7VT2 の 2 件は、妻の発症(横浜市内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因不明)後、接触者検診で夫の感染(無症状保菌者)が確認されたものです。O157 VT1VT2 の 1 件は国内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因は不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意が必要です。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあるので注意しましょう。また、感染者から 2 次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。
◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 3 A 型肝炎:2 件の報告がありました。うち 1 件の遺伝子型は Ia でした。どちらも国内での経口感染が推定されていますが、明らかな原因は不明です。
- 4 レジオネラ症:肺炎型 2 件の報告がありました。1 件は横浜市内での水系感染(自宅浴槽から LAMP 法でレジオネラ陽性)、もう 1 件は神奈川県内での塵埃または水系感染(こちらも自宅浴槽から LAMP 法でレジオネラ陽性)が推定されています。同居家族の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ肺炎では、2~10 日程度の潜伏期間の後、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、高熱等の症状を呈します。β-ラクタム系及びアミノ配糖体系抗生物質は無効で、マクロライド系、ニューキノロン系等が有効です。入浴施設の利用歴等の確認が重要です。
- 5 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件は国内での性的接触による感染、1 件は感染地域、感染経路とも不明、もう 1 件は中国での経口感染が推定されています。
- 6 急性脳炎:30 代の報告が 1 件ありました。病原体、原因等不明です。
- 7 クロイツフェルト・ヤコブ病:1 件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。手術歴、渡英歴等ありませんでした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

定点把握の対象

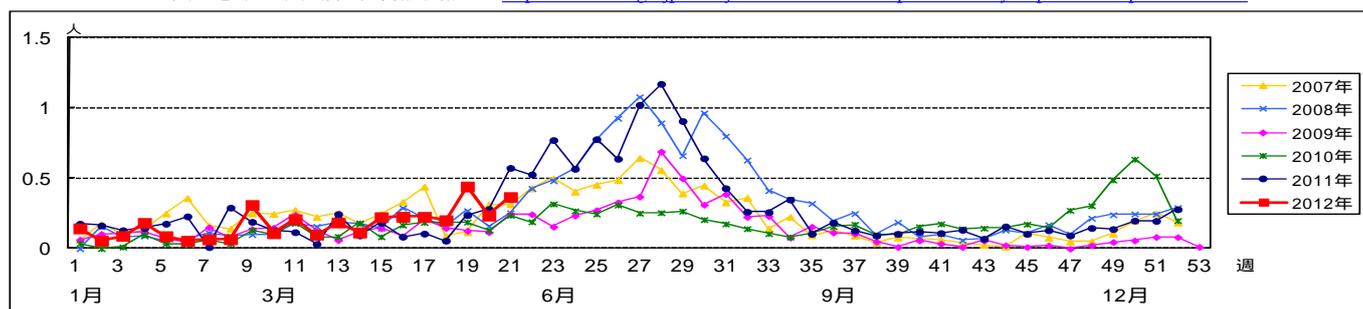
- 1 咽頭結膜熱:市全体で第 21 週 0.37 と落ち着いており、区別にみても流行はみられません。ただ、例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。

本疾患は発熱、咽頭炎、眼症状を主症状とし、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。原因ウイルスはアデノウイルス 3 型が主ですが、1、4、7、14 型も知られています。特に 7 型は乳幼児や老人では重篤な症状となることがあるので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要

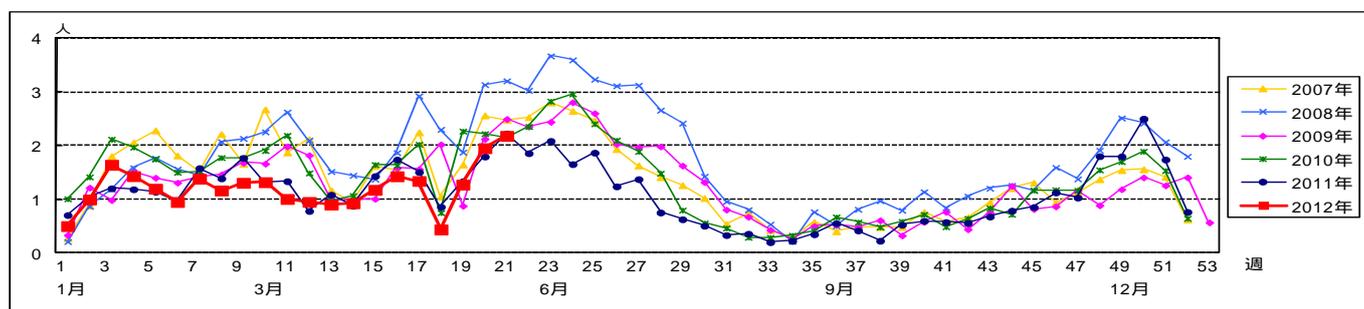
平成 24 年 週 - 月日対照表	
第 17 週	4 月 23~29 日
第 18 週	4 月 30~5 月 6 日
第 19 週	5 月 7~13 日
第 20 週	5 月 14~20 日
第 21 週	5 月 21~27 日

です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています

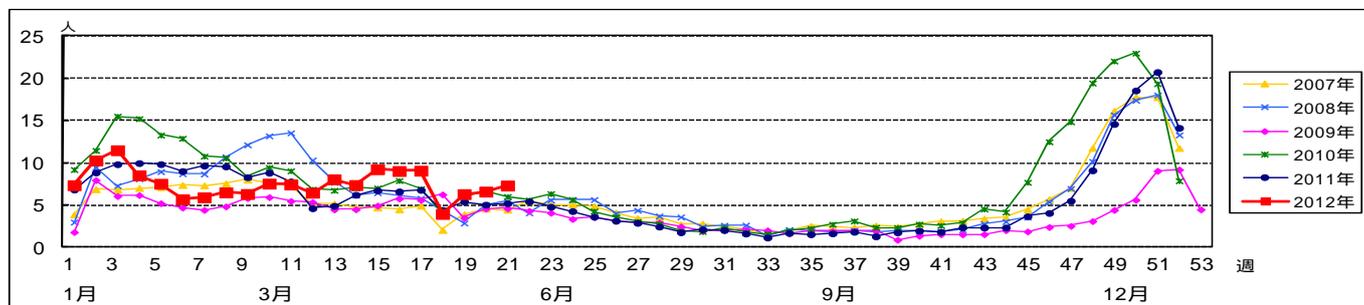
◆国立感染症研究所:咽頭結膜熱とは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc/392-encyclopedia/323-pcf-intro.html>



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり8.0以上)を大きく下回っていますが、第18週 0.44、第19週 1.28、第20週 1.96、第21週 2.18と若干増加傾向です。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



3 **感染性胃腸炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり 20.0 以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数が多い状態が継続しており、集団発生の報告もあることから引き続き注意が必要です。



4 **性感染症**:4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が0件でした。

5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は 1.60～1.40(例年定点あたり 0.2～0.6 程度で推移)と増加しました。最近では、18週 0.66、19週 0.74、20週 0.79と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第18週 0.00、19週 0.00、20週 1.00と、前シーズンの第18週 0.00、第19週 0.00、第20週 0.00をやや上回っています。細菌性髄膜炎が17週に1件(乳児。原因菌は肺炎球菌。小児用肺炎球菌ワクチン3回接種歴あったものの、ワクチンと血清型が異なっていました。)ありました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 **基幹定点月報**:4月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>